

令和5年度 事業報告

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

特定非営利活動法人石見銀山資料館

1 全体総括

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症への対応が5類に変更されたことでコロナ禍以前の状況になることが期待された。資料館及び指定管理施設の入館・宿泊者数の状況を見ると、大幅な改善はないものの結果としては増収・増益となった。以下具体的な活動状況について公益事業・指定管理業務・収益事業に分けて述べる。

資料館の運営にかかる公益事業では昨年度と同様に中央大学（8月）と関西学院大学（8月・2月）のインターンシップの受け入れを行った。中央大学のプログラムでは大森町はもとより三瓶地区や温泉津地区などでの体験メニューも用意した。一方、関西学院大学においては同大ハンズオンラーニングセンターのプログラムの受け入れとして実施した。約1ヶ月にも及ぶ長期ということもあり生活面や健康管理などの心配もあったが、学生、法人双方にとって有益な事業となった。

専門的な知識・技能の提供を伴う依頼業務では他郷阿部家と大田市人権推進課から内容の監修や原稿の執筆を行った。また、教育普及活動では、大田市内の小中学生を対象とした石見銀山学習への支援や協力なども実施している。そのほか展示関係では「第2回キルトフレンド展 ～石見銀山キルトの散歩道～」(会期11月2日—6日)の会場として展示室を提供し、期間中500人近くの方の来館者を迎えることができた。広報・情報発信では大田市の補助金を活用してpodcast「石見銀山あおぞら放送局」を開設した。従来のSNSに加えて新たな取り組みも行うことができた。

指定管理業務は仕様書に明記された内容を年間計画に従って着実に実行した。指定管理3施設の入館・宿泊料は、前年度を上回る実績となっているものの微増に留まっており、コロナ禍以前の状況に回復するに至っていない。

仕様書に記載された業務の内、市内の小中学生を対象とする昔の暮らし体験では定番のかまど体験を中心とし、掃除や野草茶作りなどの体験学習も学校の要望や規模に応じて臨機に対応することができた。施設の誘客・集客に関しては幸い国内のインバウンド需要の拡大に伴い、石見銀山遺跡の中での日本の暮らしや文化を伝える施設としての熊谷家住宅の存在感が高まっている。そのため当該年度は大田市観光協会などと連携し旅行商品の造成に向けたモニターツアーの実施も積極的に行った。あわせてインバウンドでは日本の生活や文化の体験に人気があることから従来熊谷家住宅で提供してきた昔の暮らし体験プログラムをさらにブラッシュアップし、外国人観光客の取り込みに繋がるよう努めた。

収益事業では、通常の部品販売のほかに、館長講座・華展・おひなさま展・特別講座・手しごと教室などを実施した。

なお、本年10月には資料館内にVirtualion株式会社の支社が開設されたのを契機に同社との間で連携協定を締結し、次年度以降様々な事業を展開していく予定である。

2 事業内容

事業名	事業内容	実施予定の 日時、場所、	受益対象者の範囲 及び予定人数	事業費 (単位：千円)
石見銀山資料館の 管理運営事業	入館券の販売、展示解 説、遺跡のガイドンス	通年 石見銀山資料館	一般・小人 8,534人	5,214
大森の町並み関連 施設指定管理事業	熊谷家住宅・旧河島家 ・宗岡家の管理運営	通年 熊谷家・河島家 宗岡家	一般・小人 13,020人 314人	21,205
書籍・物品等の販売 事業 自主事業	・書籍地場産品の販売 ・参加費等 ・書籍地場産品の販売 イベント体験等事業	通年 石見銀山資料館 熊谷家・河島家	一般・小人 34名 157名	1,640 648
受託事業	・資料調査 ・デジタル動画作成 ・人権学習研修テキス ト作成	石見銀山資料館 通年	3団体	990
その他法人の目的 の達成に必要と認 められる事業	・石見銀山あおぞら放 送局開設	石見銀山資料館 熊谷家住宅 通年	一般 65人	100